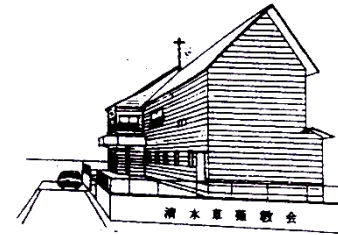


**《今朝の聖書から》**今朝の聖書箇所が登場する人のうち、ヨハネについてまず思い出しましょう。当時、宗教的にも行き詰まり、祭司職が金銭で売買され、外国の圧力にもさらされ、社会は本当に疲弊していたことでしょう。市民にとって、これから良い時代が始まるという思いは、とても持てなかったようです。そこにイエス様があらわれたのです。この状況について今の私たちの世界と比べてみましょう。これから素晴らしい時代がやってくる、その時は自由で、人間性が開花し、愛が報われる時代で、また豊かでもある、などと思えるでしょうか。結論は後まわしにしますが、“聖書には絶えることのない希望が指し示されている、だから明るく希望をもって”とはなかなか言えないような状況が、身の回りを見ても、世界の貧しい国々を見ても飛び込んでくるばかりです。けれども今、感謝すべきことについて思い出しましょう。“日ごとの食料を与えてください”と私たちは祈りますが、贅沢とは言えないにしても、実に豊かな食物に、ここ日本では囲まれ、人々は“からだのことを考え、何を食べないでおこう”と考えるような現状にあります。勉強したいと思えば学ぶこともできます。あとはもう思い出せばきりが無いことに気付くでしょう。聖書に描かれている希望には“あなたはこんなにも恵まれているのですから”という、前提があるようです。本当の限りない絶望の中に人がいたとしたら、希望をもちましょうという言葉ほど、虚しく響くものはないのではないのでしょうか。今年のクリスマスは“主による救い”ということも考えましょう。救われている私たちの姿についてです。神がともにいてくださって、困難を乗り越える力を与えてくださるという救いへの希望です。それは天国に至る道なのです。ここに描かれている人々の様子は、読めば分かります。お家騒動に巻き込まれ首をはねられてしまうヨハネですが、確かにこの方が、来るべきメシアであるという平安が得たかったのです。多くの群衆も、どのようなものであるかは、いまだよく分からないけれど、大いに期待し、救いを見にやってきたのです。さて戻りましょう。希望は、主の救いを信ずることを土台に、十分に持てるのです。今あなたはどのように恵まれていますか。思い出してみる時、救いと希望も、信仰によって、そこにあることに気付くのです。

# 週報

2008年 12月 7日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885  
 静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26  
 ☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)